

令和7年第3回ひたちなか市
教育委員会3月定例会

日 時 令和7年3月13日(木)
午後5時
場 所 市役所第3分庁舎 教育長室

次 第

- 1 開 会
- 2 教育長のあいさつ及び開会の宣告
- 3 議案審議等
(1) 議案第3号 県費負担教職員の人事の内申について
- 4 その他
(1) 市立学校運営方針2025について
- 5 閉 会

自ら考え行動しより良い社会の創造に貢献できる市民の育成
～ こどもを主語とした自由で楽しい学び場づくり ～

【重点方針】

- 1 探究を軸とした学びのスタイル改革 ～モチベーションと出番を重視した学びを追究
 - 1 課題解決重視型学習×ICT活用 ～課題を発見し解決へ向け試行錯誤し成果を発信
 - 2 AIドリル活用、自由進度学習奨励（算数数学等） ～学びのオーナーシップをこどもに
 - 3 All English 授業 ～世界とふれあう自立協働都市をめざして・多文化共生社会へ対応
 - ☞ 1・3…「計画訪問」における授業公開（含地域、2の公開は奨励）
 - 4 キャリア探検ラリー ～社会のリアルを体験し学びのモチベーションにつなげる
 - 5 学校間英会話交流（奨励、習熟度別）、英語プレゼン発表会
 - 6 茨城高専との連携 …留学生との交流による英会話体験、実験・演習等
 - 7 **ふるさと体験プログラム・ひたちなか検定** ～白亜紀層から G1 タワーへ、そして未来へ
- 2 自治的活動による Agency の育成 ～こどもの意見を尊重した魅力ある学校づくり
 - 1 学級会、委員会、生徒総会等の活性化 …企画・合意形成・意見表明のトレーニング
 - 2 こどもを主体としたルールメイキングや学校行事等見直し ～当事者意識・責任感育成
 - ☞ 11月「いばらき教育月間」における授業公開 ※主体的・創造的シビックプライドの醸成
- 3 一人一人の教育的ニーズに対応した児童生徒支援の充実 ～早期発見・早期対応を徹底
 - 1 こどもの困難や問題行動に向き合い共感し、共有し支援する組織体制の充実
 - 2 不登校の根本要因へのアプローチ・研究の充実
 - 3 いじめ認知の徹底と迅速化 ～命・人権を最優先する組織風土を醸成
 - 4 アセスメントシートの開発・活用、個別の支援計画・指導計画の活用
 - 5 ケース会議の確実な実施、医療・福祉等専門機関との迅速な連携、学校間情報交換の推進
- 4 校長のリーダーシップによる組織マネジメントの充実
 - 1 問題発生時における状況把握と迅速・適切な判断・指示のためのガバナンスの強化
 - 2 こどもの観察や教職員間の情報交換の充実、弱音・愚痴をこぼせる学校・職場づくり
 - 3 体罰・暴言等の不適切指導の根絶 ～命と人権を守るロールモデルとしての自覚を徹底
 - 4 ミドルリーダーを生かしたミドルアップダウン体制の構築
 - 5 こども・教職員・組織の取組の検証と改善の着実な実施（PDCA）
- 5 研修の充実 ～学びのプロに、受ける研修から求める研修へ、オーナーシップを教職員へ
 - 1 市教育研究会部会のリードによる研修体制の充実、オンラインに重点・頻度増・定例化
 - 2 校内研修の内容の重点化、ウェビナーの奨励（NITS・民間等）、中高接続の研究
- 6 働き方改革の徹底 ～授業を改善しこどもの困難に向き合う本務に専念できる環境を担保
 - 1 時間外月 45 時間未満を実現する業務分担の追究 …繁忙期の分掌変更・平準化等
 - 2 出張・会議のスリム化 …校長会等含む、事前打合せ・連絡のオンライン化の促進
 - 3 チーム担任制・教科担任制の推進、複数校遠隔授業の奨励
 - 4 **業務量管理・健康確保措置実施計画**策定、デジタルツールのフル活用
- 7 地域とともにある学校づくりの推進 ～地域のこどもを地域で育てる、まち全体が学校
 - 1 コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的推進 ～こどもも地域活動に参画
 - 2 学校部活動の地域展開の推進 ～魅力ある学校づくりとセットで

■ 補足資料

〈新規〉

□ 1 ふるさと体験プログラム

〈ねらい〉 地域資源を体験的に学ぶプログラムを開発し、シビックプライド醸成に資する

自分の根拠 (=アイデンティティ) たる自然や歴史を把握し、自分・言葉を豊かに

自 然 …白亜紀層、川・海・森林・海浜公園、食・名産等 →生態系を学ぶ

歴 史 …埋蔵文化財等、祭り・伝統芸能等、戦跡、産業等 →人々の歩みを学ぶ

〈方 法〉 社会科副読本のコンテンツをより体験的に授業・行事としてブラッシュアップ

…キャリア探検ラリーも加えると「白亜紀層からG1タワーへ、そして未来へ！」

先生方・商議所・高専等とWGを組織しプロジェクト（実行委員会）方式にて

↓

□ 2 ひたちなか検定

〈ねらい〉 地域の良さを学び、成果を確認する場を設け、シビックプライド醸成に資する

〈対 象〉 小学5・6年、校内大会の後に小学校か中学校区からの代表により市大会…を想定

□ 3 業務量管理・健康確保措置実施計画（市町村版働き方改革ガイドライン）

←給特法・学校教育法・地教行法の一部改正に伴う

〈再掲〉

□ 4 探究を軸とした学びのスタイル改革

取 組	対 象	計画訪問日授業公開
All English	英語科	英語科
自由進度学習（算・数等）	奨励	奨励
AIドリル活用	5教科	自由進度学習に取り組む方は奨励
課題解決重視型学習×ICT活用	全教科	上記以外の方

□ 5 自治的活動による Agency の育成 ←OECD “Education 2030”

校内での取組を「笑顔サミット」に反映 ←こどもの意見を尊重した魅力ある学校づくり

〈経 緯〉 いじめ防止を主眼とした魅力ある学校づくりが起点

〈方向性〉 いじめを傍観しないプライドある集団づくりとして

□ 6 研修を教育研究会主導に

研究・修養に努める主語＝オーナーは先生方自身！

☞市主催は必須・喫緊のものに厳選、市はファシリテート

先生方のニーズに応じて、先端的な研究者の招聘等へは市教委が補助

市教委で先生方対象にメルマガを発刊・送信

☞ウェビナー・オンライン会議奨励

同期・参集型の場合はピアラーニング重点 ～ダイアログ型←ダウンロード型

□ 7 中高接続

高校無償化後を見据え高校の研究を、キャリア形成の一環として！

□ 8 目標の連鎖

学校経営計画～ランドデザインへ →自己申告書（業績評価）の目標設定へ

■ 参考資料 『小学校～それは小さな社会～』鑑賞@あまや座 [2.27] ←佐藤達委員お薦め！

監督：山崎エマ（父が英国人、NYと二重生活）、日米仏フィンランド合作

舞台：世田谷区立塚戸小学校、コロナ期に長期取材を敢行

◎入学直後の1年生の学級活動に6年生が5名程度派遣され、生活面で面倒をみる

◎学級の委員・係決めは選挙

- ・黒板に書かれた委員・係名の各コーナーに自分の氏名を記入 ⇒なりたい理由を各自演説！
- ・定員オーバーの場合は、目を伏せて拳手にて投票！

◎新1年生歓迎会での合奏に向けての1年生女子

大太鼓奏者に立候補するも漏れて涙 →担任が寄り添う

シンバル奏者に選ばれるも、リハでミス連発、練習しないことを叱られ涙 →担任が寄り添う
音楽教員が個別にレッスン、2年生になっての歓迎会で演奏成功

◎放送委員の6年生男子

運動会での学年演技は縄跳び、だが二重跳びがなかなかできない

家で練習、徐々に上達、笑顔が出る、本番でもやり遂げる →「もっとできる」自己効力感へ

◎厳しく注意をする若い男性教員

児童との接し方に悩むも、管理職に相談しながら、卒業式を迎え、職員室で同僚に感謝し涙

◎校内研修で、國學院大學杉田洋教授（特別活動の権威）が講義

軍国主義教育の流れで、戦後においても、集団活動を強調する中、連帯責任を温存。

同調圧力の下、合わせられなかった者に対するいじめを教員が作ってしまっていた。

〈参考〉“協調性を重んじる日本の教育は、本当に「問題だらけ」？

映画『小学校～それは小さな社会～』監督インタビュー”抜粋（2024.12.14、CINRA）

—子どもの頃からみんなで何かに取り組み、役割や責任が与えられることは、集団生活のなかで協調性を育みます。一方で、その教育方針には問題もあると思います。映画でも、國學院大學教授の杉田洋さんが先生たちに講義をするシーンがあります。杉田さんは、日本は軍事教育をした国でもあり、協調性の高さは世界に誇るべきものだが、いじめを生むなどの可能性があって「諸刃の剣」だと指摘しています。

山崎：「諸刃の剣」という言葉は的を射ていて、協調性の高さと同調圧力の強さは表裏一体なんですよ。日本の最高にいいところと最悪にダメなところは、本当に紙一重のところにあると思います。

そして、日本式教育を受けることで徐々に白からグレー、グレーから黒に変わっていくのだとすると、小学校は白に近いところにあるのかなと思います。同じ教育システムを受け続けることでちょっとずつ危うさが出てきて、人によってはだんだん集団のなかで自分の居場所を見つけれず、違うことをしたりするのが難しくなってくる。

杉田先生が話していたことや日本が抱える教育の課題はもちろん考えないといけません。ただこの映画では、不登校やいじめなど、日本の教育システムの危険性や、表裏一体の裏の部分はあえて取り上げていません。両方を見せることは時間的にも難しかったし、簡単にあらわすこともできない。

☞ 欧米：個性重視 →〈行き過ぎ〉← 日本：協調性重視

◎一人一役活動 …civic prideへ

「〇〇が休みだと寂しい&困る」 …自己有用感を育む自動装置

「協力しよう、自分が当番の時にも協力してもらいたいから」 …当事者意識・責任感の根